

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 齊藤 暁人

本研究は難治性心不全患者に対する栄養と代謝マーカーについて検討した。1つは補助人工心臓治療を要する患者の術前栄養スコアリングの有用性についての研究、もう1つは成人先天性心疾患患者における呼気中一酸化窒素について探索的研究を行い下記の結果を得た。

研究Ⅰでは2014年から2016年の間に当院で植込型補助人工心臓手術を受けた患者連続63名を対象に、術前の栄養スコアリングを行った。スコアリングの結果をもとに中等度以上の栄養障害がある群とそうでない群の2群間で、術後の全死亡および全出血イベントに関して有意に栄養障害の強い群でイベント発生率が高かった。

研究Ⅱでは2016年から2018年の間に当院に入院した成人先天性心疾患患者で、過去半年以内に血行動態を評価する目的で心臓カテーテル検査を実施していた患者、または同検査を行う目的で入院した患者、連続28名と健常コントロール17名を対象に呼気一酸化窒素測定を行った。成人先天性心疾患患者では健常コントロールよりも呼気一酸化窒素値は低値であった。また対象患者の中央値で患者群を2群に分けて病態の比較を行ったところ、呼気一酸化窒素濃度が低い患者群では有意にチアノーゼの患者が多いという結果が得られた。

以上より、補助人工心臓装着前の栄養スコアリングが術後の予後予測に影響する因子であることと成人先天性心疾患における呼気中の一酸化窒素がチアノーゼの病態と関連する可能性を示した。いずれも簡便な栄養・代謝マーカーであり予後予測と病態把握に関する臨床的意義は大きいと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。